

## ⑤ 二面について考える

皆さんが「ふたも」と聞いて頭に浮かぶことは、板野酒造さんの清酒「二面」、そして足守川に架かる「二面橋」というところでしょうか。

実は、ほかにまだありました。二面山です。

まず、板野酒造さんが足守陣屋町の谷口屋から分家移転し、大井の現在地で創業開始されたのは、明治3年（1870）とのことです。以来一世紀半、今では媪面・翁面の絵柄の清酒「二面」は同社の代表銘柄としておなじみです。



一方、「二面橋」は板野酒造さんより時代が下るのは確かです。昭和の初め頃でしょうか。親柱の形は大井村役場の昭和8年に建てられた門柱に良く似ています。それにしても、欄干と比べ異常に太く、かつ高いこと。しかも、その頂には何か構造物（照明設備か？）が載っていた形跡があります。親柱は本来の親柱の前に別途据え付けられたものと思えなくもありません。その詮索はともかく、果たしてこれら「二面」の語源はどこにあるのでしょうか。



備中誌は、大井村のことを、「古名、二面村と言う。寛永年中大井村と改む。蓋し此の村足守郷、大井郷より分出せしより二面と名付けしにや。此の地井ノ鼻という所迄は大井郷なりしよし言い伝え



り。」と述べています。

つまり、「二面村は大井郷、足守郷の二郷の一部を割いてできたので二面と名付けられた。井ノ鼻までは大井郷であったという言い伝えがある…」というのです。

これに従えば、大井村役場跡辺りの大井の中心部は、足守郷だったということになります。そうであれば、二面橋は、その名のとおり

り大井郷と足守郷の二面を繋ぐ橋になる訳です。この故か、備中誌の記載を見てください。大井村を足守郷としているのです。大井人ならずとも納得出来るものではないでしょう。

ところが、過日納得のゆく二面に会いました。板野酒造さんのパンフレットです。二面山という字句が載っていて鍛冶山とのこと。岡山大学の研究報告書に、「鍛冶山（古名二面



山)」とあることと符合します。実際、鍛冶山の尾根上を走る境界線は、その西側を大井、東側を足守に区分けしているのです。これこそ真正銘二面からなる二面山と言うことです。

話しが長くなりました。備中誌の井ノ鼻堺説に疑問が残るにしても、二面とは大井、足守の二郷を指すとするのが穏当のようです。

さて、吉備の中山の北麓に、似たような由縁による橋があります。その橋は、昭和9年に建てられた石碑から両國橋とわかります。名に従えば、備前、備中の国堺に架けられたものに違いありませんが、ち



よっと…。これを名前負けとでも言うのでしょうか。国堺よりも郷堺の二面橋に軍配が上がります。大井の先人達の意気高きこと、ここにも見ることができます。

ところで、二面橋のあたりは、昨年8月のお話のとおり、昔から足守川と日近川の氾濫に大変悩まされました。

そこで、先人達は神頼みだけでなく、自らも効果的な洪水対策を講じたのです。



備前・備中堺の両國橋

つまり、二面橋はそれまでの土橋より1mばかり嵩上げし、同時に栄町の町屋敷を北へ約



くなりました。

その際、栄町側への延伸は当初計画に無かったためか、二面橋は旧栄町屋敷の南端部（土橋時代の北詰）で二つに分断されています。

7 m 退いて橋の北詰としました。これにより川筋の縦・横が拡大され、結果、洪水時の水抜けが格段に良



当初から計画されたものならこんな事にはならないと思うのですが。